

営農指導員の ワンポイントアドバイス 番外編

このコーナーは、営農指導員から農業のちよつとしたこつをお知らせしていますが、今回は作つた野菜などを出荷できる道の駅たかの「わいわい高原市場」を紹介し

わいわい高原市場へ 出荷してみませんか？

道の駅たかの「わいわい高原市場」は、市内生産者による出荷者協議会を立ち上げ、庄原産にこだわつた、新鮮な地場農産物や加工品などを提供しています。

広島県の北の玄関口として、県内外から多くの方が訪れ、令和2年10月には来場者300万人を達成し、本年度中には400万人に到達する見込みです。

店内販売以外にも、対面販売や外部への出張販売にも力を入れ、お客さんとのコミュニケーションを大事にしています。

また生産者向けの種苗研修会など、スキルアップを目的とした各種勉強会を定期開催しています。

ぜひ、皆さんの自慢の農産物や加工品を出荷して、一緒に地域を盛り上げていきましょう。

出荷するには

「道の駅たかの」出荷者協議会への加入が必要です。ただし入会には、市内に住所を有する個人や団体、本社機能を有する法人に限ります。また資格審査も行います。

▼入会金 5千円

▼年会費 2千円（入会初年度は免除）

売上高

令和2年 3億7635万円

令和3年 3億5474万円

営業時間 9時～18時

定休日 第2・第4水曜日



問い合わせ

道の駅たかの
0824・86・3131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の魅力を発見することで、人を、まちを、もつと好きになりますように。



総領町での生活を楽しむ
池田 喜志子さん
(右から2番目)とご家族

総領町出身で、ようかんの製造販売を行いながら、地域の人たちとの生活を楽しむ池田さんに話を伺いました。

総領町で生まれ育つ

私の実家は、明治時代から総領町でようかんの製造販売をしています。昔は新聞販売も行っていたため、私が小学生の頃には毎朝、新聞配達を手伝い、休みの日には、ようかんの包装などを手伝っていました。

私はスポーツが好きだったので、高校卒業後は、福岡県にある体育系の短大に進学しました。

短大卒業後、広島市内のスポーツ用品の会社に就職しました。その頃、母とよく連絡を取り合っていたのですが、実家の仕事を手伝ってもらいたいと言われ、総領町に帰り実家の仕事に携わるようになったのが、今から27年前です。その後、町内出身の夫と結婚

し、2人の子どもに恵まれました。実家の仕事だけでなく視野を広げるため、市内の鮮魚店や総領自治振興区の地域マネージャーなど、さまざまな仕事をしました。

またPTAの活動や地域の行事にも積極的に参加したことで、さまざまなことを学びました。たくさんの人と知り合うことができ、今でも会えば声を掛けてくださるので、楽しく暮らしています。

地域の人に支えられて

実家のような販売は、お客さんから元気をもらいながら、今でも家族で続けています。

また、地域の寄り合いには、毎回参加しています。地域の人も生まれ、みんなと過ごすこの時間が、今の生活の中で一番の楽しみになっています。

総領町に帰ってきて、楽しいことも、苦労することも多くありますが、そのたびに、家族や地域の人支えてくれたことに、本当に感謝しています。これからも新しいことにチャレンジしていきたいです。

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257